

1. 町長二期目の総括と三期目へ向けた決意を問う

二期目の就任から約3年半にわたり府川町政の舵取りをされ、町の発展に寄与されてきた。

しかし、景気の回復について日本銀行の対策が図られるも、低迷した景気は一向に上向かず、町では町政運営に不可欠な財源確保を初め、異常気象に対する災害対策、また、人口減少の対策など想定外の事案が山積した二期目であったと思われる。誰もが住みたい・住みつづけたいとの思いを叶える施策を二期目へ向けたマニフェストに数多く明記されている。これらの施策で子育て支援へ向けた町単独の支援策、大型公共事業の着手など新たなまちづくりが進められたことを実感できる。

なかでも、人口の増加をはじめ、「田舎モダン」は開成町のまちづくりの一環として定着したことが実感でき、町外からも評価の声を耳にする機会が増えている。一方では、府川町政で町が成長する確固たる施策は何であるのか、どこにリーダーシップの根源があるのかとの声も聴こえる。

ここで、二期目を総括してその結果を報告して戴くとともに、町長自らの言葉で三期目へ向けて出馬表明を示されるべきであり、次期へ向けた意気込みを問う。